

一生懸命

横浜市立上の宮中学校 第3学年
平成20年6月9日発行
学年通信 第3号

修学旅行の目標はどれだけ守れたか

最初に確認します。2号で紹介しましたが、学級委員会が決めた学年目標と修学旅行の目標は以下の通りです。今号はこれが達成できたかどうかという視点で修学旅行をふりかえります。

<学年目標>	～けじめ～	ルールを守り威厳がある歴代最強学年へ
<修学旅行目標>	ルールを守り体験を大切にし学年学級の絆を深める	

まず「体験を大切にし学年学級の絆を深める」という点では、非常によい旅行だったと思います。民宿での農業体験は生き生きと活動していましたし、何よりもソーラン節は最高でした。発表はものすごく活気にあふれ、大きな声をだして元気よく踊っている姿が印象的でした。修学旅行に同行してくださった添乗員の方も「ここ数年で最高の盛り上がり」とのお褒めの言葉をいただきました。

達成できなかった点としてはやはり「ルール」でしょうか。携帯電話やゲーム等を持ってきている生徒を多数見かけましたし、2日目の就寝時間も守れませんでした。

6月は体育祭が実施されますが、学年目標で君たちが目指す「威厳がある歴代最強の学年」になるためには、「ルールに対するけじめ」をしっかりとつけることが大切です。練習や本番でも3年生が率先して、素早く整列し全校を引っ張ってほしいと思います。また、ソーラン節では修学旅行の成果を発揮して、観客をうならせるような踊りを期待します。

<修学旅行の生徒感想>

今回の修学旅行にかかわった全ての人にいえるのは「自然と共に生きる」です。1日目に泊まった民宿の方は、自然の恵みをうけ、またそれに恩返しし、そして生活を営んでいました。2日目に行ったわらび座の人たちは、普段の公演以外は秋田の自然とふれあっているそうです。3日目の中尊寺には、とても多くの木々が生えていました。その中でも中尊寺のハスはとても美しく、まさに自然を愛した藤原氏が残した「自然からの恩恵」だと思いました。神奈川県では、秋田、岩手ほど自然はありませんが、私はこの残された自然を大切にしたいと思いました。

やっぱりご飯が美味しかったことが一番の感動。ペンションでいただいた抹茶アイスといちごのパフェはの味は一生忘れないと思う。都会ではあまり食べることのなかった山菜をこんなに美味しく料理してくれたママさんに本当に感謝。私の嫌いな魚の皮もママさんのつくってくれたものなら美味しく食べられた。友達とのおしゃべりやソーラン節など、いろいろな人とたくさんコミュニケーションがとれてとても楽しい旅行だった。

ソーラン節の練習の時みんなが「頑張ろう」という気持ちでいて、とても団結することができたと思います。小学校で踊ったソーラン節よりも動きが激しくて、アレンジもあって自分のクラスらしいソーラン節ができたと思います。体育祭でもみんな協力してできたらいいです。また他の活動のときも、普段そんなに仲良くない人とも友達になれたり、全体的に楽しい修学旅行でした。

とにかく楽しかった！初めてのことも多くて、いろいろな人にたくさんの迷惑をかけたとは思いますが、中学校生活の心に残る大切な思い出になった。ソーラン節でのクラス一丸を思い出しつつ、全てにおいてこれからはもっとみんなが一生懸命になれるように学級委員として、クラス、そして学年をけじめのある、けれど一生懸命に取り組める学年にしていこうと思った。